

彫刻家

諸井謙司さん(27)

気鋭の彫刻家として制作に励む諸井謙司さん(27)は佐賀市。昨年の佐賀県展では全7部門の頂点にあたる最高賞を獲得、日展では7回目の入選を果たした。一昨年は神奈川・岡田美術館の永久設置作品を制作するなど活躍著しい。

県展作品は等身大の人物2体の群像。規格ギリギリの大きさや細部の徹底した作り込みも詰めが甘いところがあり、逆に未熟さを感じ知ったという。「何を伝えたいか明確さが足りない」と厳しい言葉を並べる。

佐賀北高時代から立体への思いは強く、教諭から模刻を勧められて粘土に向き合った。一から形を作り上げる作業にのめりこんだ。やがてブロンズ(銅)で作品を作りたいと大学で彫刻を専攻する。

諸井さんのテーマは「自然物」。自然の中で人間が一番身近な存在との考えから人体を作り始めた。大学2年の時、等身像に挑むも全く思いつけなかった。壁にぶち当たったことが、彫刻を一生勉強しようと思える契機になった。

古典彫刻に勝負かける



大学で学んだ後、佐賀にアトリエを構え、公募展へ積極的に出品を続ける。最近の対象を見たまま作ることがようやくできるようになったと語る。「一つ一つの工程をさらに研ぎ澄まし、見る側に単なる一つの形としてではなく、自分の世界観を伝える力を持たせたい」と向上心を見せる。

今春には鳥栖市で初の個展が控え、制作にも一層熱が入る。「これからは古典彫刻で勝負をかけた。これは、諸井にしか作れないと言われるような作品が将来できれば」と夢を語る。

(成富禎倫)

■もろい・けんじ 1988年、佐賀市生まれ。佐賀北高芸術コースから崇城大に進み、同大院修了。同大研究生を1年務めた。県展、美協展のほか日展、昭和会展などでの入賞・入選も多い。

県内
若手文化人の
抱負

芸術の高みを極めるため何を生み出し、どう表現していくのか。洋画や陶芸、邦楽、彫刻など佐賀のアーティストをけん引する若手文化人4人に、2016年にかかる思いを聞いた。